

ヨルダンに対する開発協力



在ヨルダン日本国大使館

2015

日本のヨルダンに対する開発協力

2014年度末時点累計



有償資金協力

2526.59億円

(2015年含む)



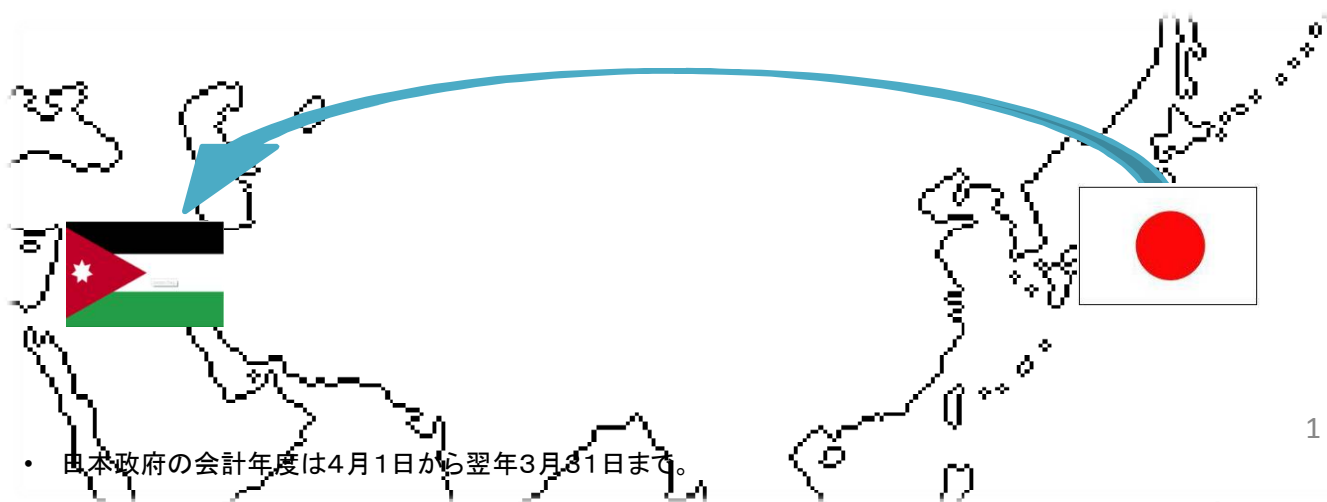
無償資金協力

785.49億円



技術協力

333.50 億円



・ 日本政府の会計年度は4月1日から翌年3月31日まで。

有償資金協力(円借款)

有償資金協力は、金利、償還期間等について
緩やかな条件が付された有償の資金供与による
協力をいいます。






写真提供：久野真一 (Shinichi Kuno) / JICA



写真提供：久野真一 (Shinichi Kuno) / JICA

写真上：1999年「観光セクター改善事業」で死海パノラマ観光施設を建設。
写真右：1994年及び1996年 アカバ火力発電所増設事業。

年度	円借款
2012	<p>「人材育成・社会インフラ改善計画」(2012年8月E/N署名, 122.34億円) 職業訓練所, 高等教育機関, 医療機関のリハビリ・改修・建設及び機材整備, 並びに初等・中等教育機関の機材整備する。</p> 
2013	<p>「財政強化型開発政策借款」(2014年3月E/N署名, 120億円) シリア難民の流入等により財政負担が大幅に増大したヨルダンに対する財政支援。 世界銀行と協調して, ヨルダン政府が推進する経済改革を支援する。</p> 
2015	<p>「財政・公的サービス改革開発政策借款」(2015年5月E/N署名, 240億円) 本事業では、ヨルダン政府による (i) 債務管理分野、 (ii) 公的サービス分野の二分野における改革を支援し、 ヨルダン経済の安定化を支援する。</p> 

無償資金協力

無償資金協力は、開発途上地域の開発を主たる目的として行われる無償の資金供与による協力をいいます。
シリア危機を受け近年のヨルダンに対する無償資金協力は、主に難民キャンプや難民を抱えるホストコミュニティの支援に供与されています。

無償資金協力事業例

バルカ県送配水網改修・拡張計画 (FY 2014)

ヨルダン渓谷北・中部給水網改善・拡張計画 (FY 2005-2007)

ザルカ地区上水道施設改善計画 (FY 2002-2003, 2006-2008)

キングフェイン橋架け替え計画 (FY 2000)

ヨルダン南部・北部地域消防救急機材整備計画 (ヨルダン全土) (FY 2004)

水質汚染監視計画 (FY 2002) (ザルカ, イルビッド, アンマン, バルカ)

アンマン都市圏上水道施設改善計画 (FY 1996, 1998-2001)

写真提供: 久野真一 (Shinichi Kuno) / JICA

空港治安対策強化計画 (FY 2009)

ベトラ博物館建設計画 (FY 2013, 2014)

南部地域拠点病院及びアルバシール病院医療機材整備計画 (FY 2006) (アンマン, カラク, マアン)

大アンマン市環境衛生改善計画 (FY 1993, 2004)

最近の事業

- ・「途上国の要望を踏まえた工業用品等の供与」(ノン・プロジェクト無償資金協力)(2012年3月E/N署名, 2.5億円)
- ・「次世代自動車ノン・プロジェクト無償資金協力」(2013年3月E/N署名, 3億円)
- ・「日本方式普及ノン・プロジェクト無償資金協力」(医療・保健パッケージ) (2014年3月E/N署名, 7.50億円)
- ・「中小企業ノン・プロジェクト無償資金協力」(気象観測機材) (2014年11月E/N署名, 2億円)
- ・「医療機材ノン・プロジェクト無償資金協力」(2015年3月E/N署名, 10億円)
- ・「地方産機材ノン・プロジェクト無償資金協力」(2015年3月E/N署名, 10億円)

All photos by JICA

技術協力

技術協力とは、日本の知識・技術・経験を活かし、同地域の経済社会開発の担い手となる人材の育成を目的とした協力をいいます。技術協力は、日本の技術や技能、知識を開発途上国に移転し、あるいは、その国の実情にあった適切な技術などの開発や改良を支援するとともに、技術水準の向上、制度や組織の確立や整備などに寄与します。日本政府は1985年に同協力をヨルダンで開始して以来約333.50億円の支援を実施し、825名の専門家の派遣、2,463名のヨルダン人研修員の日本への受け入れをおこなっています。(2014年度末時点)



職業訓練技術学院
(1997-2002)
by JICA



情報処理技術向上
(1999-2002) by JICA



ICTを活用した理科教育のための
LRC機能強化プロジェクト (2006-
2009) by JICA



職業訓練マネジメント強化プロジェ
クト (2006-2010) By JICA



無収水対策能力強化プロジェクト
(2009-2011) by JICA



中小企業品質／生産性向上(カイ
ゼン)手法普及計画プロジェクト
(2010-2013) by JICA



シリア難民ホストコミュニティ緊急
給水計画策定プロジェクト
(2013-2016) by JICA



電力セクターマスタープラン策定プ
ロジェクト (2014-2017) by JICA



写真提供：久野真一 (Shinichi Kuno) / JICA



写真提供：JICA/ Sanae Numata

技術協力	
2011	9.23億円 研修員受入 101人 専門家派遣 9人 調査団派遣 41人 機材供与 24.00百万円 青年海外協力隊派遣 23人 その他ボランティア 10人
2012	7.62億円 研修員受入 321人 専門家派遣 25人 調査団派遣 37人 機材供与 45.64百万円 青年海外協力隊派遣 17人 その他ボランティア 4人
2013	10.87億円 研修員受入 106人 専門家派遣 48人 調査団派遣 53人 機材供与 64.43百万円 青年海外協力隊派遣 36人 その他ボランティア 5人
2014	9.17 億円 研修員受入 106人 専門家派遣 44人 調査団派遣 59人 機材供与 31.58百万円 青年海外協力隊派遣 22人 その他ボランティア等 2人

草の根無償資金協力

草の根・無償資金協力とは、NGOや地方自治体が直接裨益者に届く草の根レベルの比較的小規模な事業に対して資金を供与するものです。ヨルダンに対する支援は1990年にヨルダンへの支援を開始して以来、学校の増築工事、医療機材供与、所得創出事業等、136のプロジェクトを実施してきました。



実施事業数 **136 件**
 合計資金 **8,751,592 米ドル**
 (1990～2014年度)



草の根・人間の安全保障無償資金協力事業例 (平成23年度以降)

- ・ 平成23年度
 『視覚障害者扶助組合の教育用設備改善計画』
 『バカア難民キャンプにおける保育園改善計画』
 『キング・フセインがんセンターの医療用設備改善計画』
 『マルカ難民キャンプにおける幼稚園改造計画』
 『アジュルンにおける職業訓練校機材更新計画』
 『アル・ラジャ聴覚障害児専門施設通学バス更新計画』
- ・ 平成24年度
 『アル・ヌズハ診療所における医療機材整備計画』
- ・ 平成26年度
 『マカーセッド慈善病院救急車整備計画』



日本のNGOに対する無償資金協力

日本政府は日本のNGOが開発途上国・地域で実施する経済社会開発事業に必要な資金を供与しています。



アンマン公立校にて補習授業を実施。



ザアタリ難民キャンプにて情操教育を提供。
 (写真提供: KnK)



ザアタリ難民キャンプにて給水システム・貯水タンクを提供。(写真提供: JEN)



ヨルダン全土公立校にて水・衛生教育を実施。
 (写真提供: JEN)



ザルカにて子ども向け心理社会的ケアワークショップ
 (写真提供: NICCOD)



国際機関に対する支援

現在、日本政府は大量のシリア難民が流入する事態に対応するため、前述の優勝無償資金協力等の二国間支援に加え、国際機関を通して難民支援を行っています。2013年から2015年の3年間に日本は、国際機関等に対して約7,400万米ドルの支援を行っています。

年	資金額	国際機関
2013年3月	2750 万米ドル	UNICEF, WFP, UNHCR
2014年3月	1918.3万米ドル	UNICEF, WFP, UNHC, IFRC, IOM, UNIDO, UNOPS
2015年3月	2769.8万米ドル	UNICEF, WFP, UNHCR, IFRC, IOM, UNOPS, UNODC, UN Women



UNDP: ホストコミュニティの難民増加によるゴミ処理改善 (2013年度)



UNDP: ゴミ収集車6台を供与 (2013年度)



UNOPS: アズラック難民キャンプの治安維持対策 (2014年度)



UNOPS: アズラック難民キャンプで使用する車輛の供与 (2014年度)



UNOPS: アズラック難民キャンプで使用するバスの供与 (2014年度)



UNICEF: ザアタリ難民キャンプにおける下水処理施設建設



UNOPS: ザアタリ難民キャンプにおける警備施設建設



UNOPS: ザアタリ難民キャンプにおける警備施設建設



UNHCR: ザアタリ難民キャンプにおける越冬支援



UNHCR: ザアタリ難民キャンプにおける生活必需品の配布

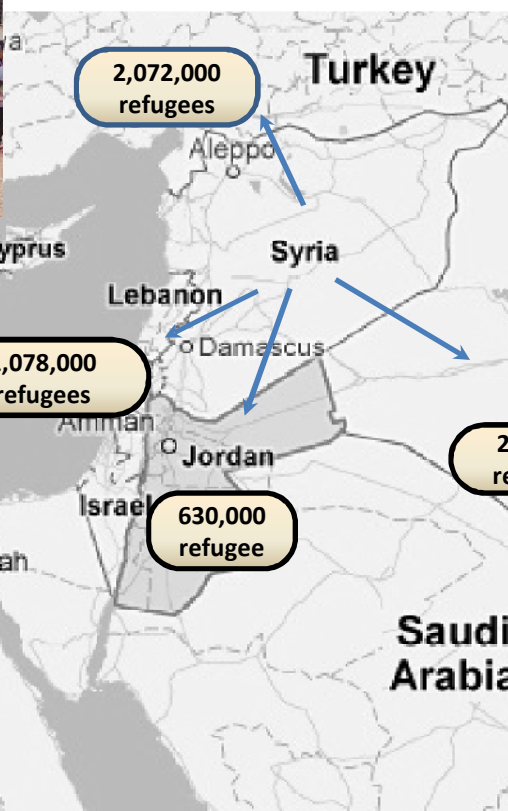


IFRC: 応急処置訓練機材提供

シリア難民支援

2011年シリア危機が勃発してから、ヨルダンでは63万人のシリア難民を受け入れてきました。日本政府はシリアの深刻な人道問題に対し、難民及びシリア内の国内避難民へ国際機関等を通して支援の強化を図っています。

「シリア邦人人質事件を受けた今後の日本外交(3本柱)」が2015年2月に発表し、更なるシリア危機対応への支援をおこなうことを表明しました。



実施事業例

「シリア・アラブ共和国から流出した難民及び同国の国内避難民等に対する緊急無償資金協力」
(2013年9月、総額約4,340万ドル。うち対ヨルダン支援(2国間)は10億円)
供与機材:ゴミ収集車(69台)、ホイールローダー(16台)給水車(9台)、汚泥運搬車(9台)

「北部地域シリア難民受入コミュニティ水セクター緊急改善計画」(2014年3月E/N署名、25.1億円)
シリア難民の流入しているヨルダン北部4県(イルビッド、アジュルン、ジェラシュ、マフラク)において、水セクターの既存施設(送配水配管網とポンプ)の整備・改修等を行うことにより、対象地域住民への上下水道サービスの改善を図る。

平和と繁栄の回廊

日本政府は、イスラエル・パレスチナ間の和平に向け、持続的な経済開発を伴う健全なパレスチナ国家を、イスラエル、ヨルダン等近隣諸国の協力を得て樹立することが不可欠とし、「平和と繁栄の回廊」構想を2006年に提唱しました。パレスチナ、イスラエル、ヨルダン、日本の4者からなる協議体を立ち上げ、日本の開発協力を戦略的・機動的に活用しつつ、域内協力の具体化に取り組んでいます。

日本政府は「平和と繁栄の回廊」構想に基づき、ヨルダン内でさまざまなアクティビティを通して、技術訓練及び難民支援を実施しています。



ヨルダン国内の パレスチナ 難民キャンプ



女性にも働くチャンスをと啓発活動

イルビッド難民キャンプ



フスン難民キャンプ



ヌーフ難民キャンプ



ジェラシュ難民キャンプ



家の外で働けない女性を対象とした手作り石鹸の研修

バカア難民キャンプ



ザルカ難民キャンプ



マルカ難民キャンプ



ジャバル・フセイン難民キャンプ



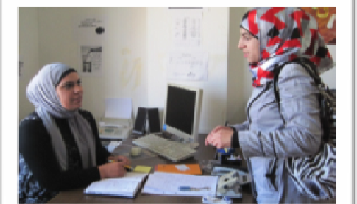
アンマン・ニューキャンプ



タリビエ難民キャンプ



女性が家の外で働くことについてワークショップ



女性の求職者への就職先の紹介、面接指導、就職後のフォローアップ



香水作り研修



農業省職員によるオリーブオイル石鹸作り講習



(写真提供: JICA)



表紙写真提供元: 官邸からの提供

裏表紙写真提供元: (上から)

UNHCR

UNDP

UNHCR

Embassy of Japan in Jordan

P.O. Box 2835, Amman, 11181. Jordan

+962 - 6 - 593 - 2005

URL: www.jordan.emb-japan.go.jp

Facebook: <https://www.facebook.com/pages/Embassy-of-Japan-in-Jordan/1041121612566706>